

三宝院

三宝院は、醍醐寺の14代座主だった勝覚僧正(1057-1129)によって1115年に住職の住居として建てられました。現在の建物は、天下を統一した武将の豊臣秀吉(1537-1598)によって1598年に再建されたものです。「三宝院」という名前は「三宝」を意味します。これは、仏・法・僧を指す仏教の概念です。

三宝院は、複数の建物と5,000平方メートルを超える庭園から成ります。表書院は、桃山時代(1568-1600)の建築と装飾の典型的な例です。襖絵は金箔の絵で装飾されていますが、これは、より古い時代に好まれていた、より地味な装飾品とは一線を画しています。

三宝院の庭は寺院の内側から見るように設計されています。1598年、桜の季節に大宴会を開催し、その機会に三宝院を改装したことで知られている豊臣によって設計されました。

今日でも庭は花見の人気スポットです。庭園には、理想化された自然の世界を表現する石、池、滝、苔など、日本の園芸デザインの伝統的な要素が見受けられます。